

おいしい米

づくり情報 第4号

“新・米づくりやまがた日本一運動”
庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課
Tel. 0235-64-2103

5月12日頃から、この時期としては強い寒気が流れ込み、最高気温・最低気温ともに平年より低くなると見込まれます。苗の管理・田植え後の稲の管理には十分注意しましょう。

ポイント→①低温や強風を避けて田植えを行いましょ！
②除草剤は雑草にあわせて効果的な使用を！

①苗の管理

風囲い及び被覆資材を田植えまで撤去しないで、ハウス内が5℃以下にならないように苗の管理を行いましょ。

②移植作業のポイント

- 収量・品質及び食味を安定させる移植適期は **5月10日～15日頃**です。

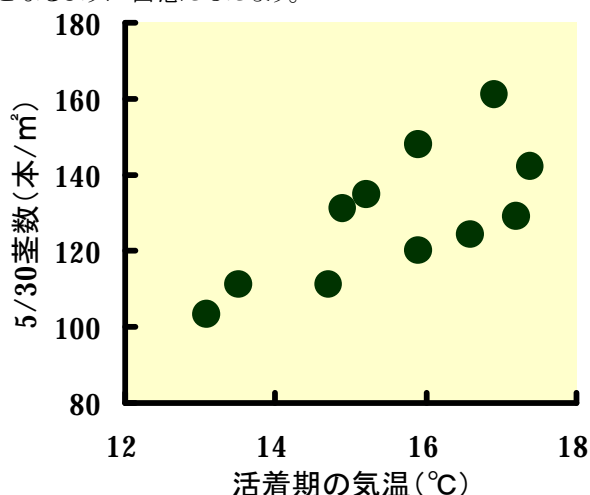
早過ぎる田植えは出穂期が早まり、登熟期間に高温になりやすく品質低下が心配されます。

- 田植えは低温や強風時を避け、条件の良い日を選びましょ。

移植直後に低温や強風にあうと植え痛みにより活着・初期生育が遅れます。天気予報を参考に条件の良い日に田植えをしましょ。

- 過度な浅植えや深植えとならないように植え付けしましょ。

根が露出するような過度な浅植えは除草剤の薬害が発生しやすく、深植えは初期の分けつを抑制し、うわ根の発達も不十分になりやすいといわれています。適切な移植速度で田植えをするなど、適正な植え付け深(3cm程度)となるように留意しましょ。



活着期に低温だと初期の生育が抑制されます。

焦らず適期に、天気の良い日に移植しましょ。

図 活着期の気温が初期生育に及ぼす影響 (H10～19 庄内支場作況圃データ)

③水管理のポイント

- **活着までは水深を 4～5cm 程度**とし、以後は分けつの発生を促進させるため、基本的に**水深 3cm 程度の浅水管理で地水温の上昇**に努めましょう。
- 初期の丁寧な水管理が初期生育を促進します。**日中止め水・朝夕かんがい**を徹底しましょう。
- 強風や低温(平均気温 15℃以下)が続く場合は深水管理で稲体を保護しましょう。

④病害虫・雑草防除のポイント

- 箱施用剤を使う場合は、**使用時期・使用量を厳守**しましょう。
- **ポジティブリスト対策**も忘れずに！特にハウス内での後作を予定している場合は、箱施用剤をハウス外で散布するなど土に薬剤がこぼれないよう工夫をしましょう。
- 補植苗はいもち病の発生源となります。**補植が終わったら直ちに残りの苗を処分**しましょう。
- 除草剤を**効果的かつ適正**に使用するために、次のポイントをおさえましょう。

項目	除草剤散布の注意点
適用草種	成分によって、効果のある雑草や、防除適期が異なります。 雑草の観察 を丁寧に。
ほ場整備	均平度を高め、水もちを良くし、土の硬さを適切にする 。漏水対策を十分にする。薬効が十分に発揮され、薬害を防ぎます。
使用時期	定められた時期に散布することが大切です。特にノビエの葉齢が進みすぎないうちに散布することが重要です。雑草の生育をよく観察し、遅れずに散布しましょう。
水管理	散布時は 5cm 程度の湛水状態 で。 散布後 1 週間は止水 を。
水稻への薬害	①軟弱徒長苗、②極端な浅植え・深植え、③根の露出 (植穴の戻りが悪い)などが薬害発生の原因となるので、それぞれ最適な状態となるようにしましょう。
フロアブル剤	散布後に多量の降雨が予想される場合、除草効果が低下する恐れがあるので使用を避けましょう。
ジャンボ剤	藻類の発生が多い水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので使用しない。また、藻類が発生し始めないうちに、使用時期の範囲内で早めの散布を心がけましょう。
周辺作物への薬害	周辺作物への飛散・水路への流出には、特に注意 しましょう。 MCP、モリネトを含む剤や SM 剤は、 大豆・ウリ類に近接するほ場で使用する 場合、蒸散・揮発による薬害に要注意。
SU 剤抵抗性	①毎年、ホタルイやコナギなど同じ雑草が 1 種類だけ残っているような場合、SU 剤抵抗性雑草の疑いがあります。SU 剤抵抗性雑草に効果の高い剤を選びましょう。 ②SU 剤を含む同一薬剤を連年使用すると抵抗性雑草発生の原因となります。 同じ剤の連用を避け 、2～3 年目には初期+中期体系処理にするか、非 SU 系一発処理除草剤を使用しましょう。

<春季農作業事故防止運動強化月間 4/10～6/10 実施中>

今年もすでに県内で田植え作業中の死亡事故が発生しています。
余裕を持った作業計画であせらず事故の無いよう注意しましょう。